

南監発第55号
令和2年3月16日

南小国町議会議長 平野 昭夫 様
南小国町長 高橋 周二 様
南小国町教育長 岩切 昭宏 様

南小国町代表監査委員 下城 宣夫
同 監査委員 井野 和哉

令和元年度定期監査結果報告書

地方自治法第199条第4項の規定により、令和元年度定期監査を下記のとおり実施しましたので、同条第9項の規定により報告並びに同条第10項に基づき意見を提出します。

記

1 監査対象課

総務課 町民課 福祉課 税務課 建設課 農林課 まちづくり課
会計室 保育園 教育委員会 給食センター 議会事務局
町内の各小・中学校

2 実施期日 令和2年2月3日 ～ 令和2年2月13日 (内7日実施)

3 監査の方法

事前に関係部局より次の資料（1月1日現在）を求め、これをもとに実施した。

- ① 職員配置及び事務分掌調書
- ② 補助金交付調書
- ③ 執行状況に関する調べ（歳入）
- ④ 執行状況に関する調べ（歳出）
- ⑤ 工事進捗状況調書
- ⑥ 公用車両等の状況調書

⑦ 滞納状況一覧表（現年度、過年度毎）

収入状況、支出状況については、適時調査をしている。

4 監査結果の報告及び意見

各課の調査結果では、一部の年度末支払いを除き、現時点での予算執行状況は全体的にほぼ順調である。その中から今回の定期監査について報告する。

「事務分掌」

熊本地震・九州北部豪雨災害の影響により、建設課職員を中心とした時間外勤務手当の支出が昨年度までは続いていた。しかし、本年度は大きな災害が発生しなかったことにより、繰り越されていた災害復旧事業も順調に進んでおり、時間外勤務も昨年度と比較して改善されているように思う。

ただ、災害査定に乗せられなかった小規模なものがまだ残されている現状があり、今後も担当職員の体調管理に気を付けて業務に当たっていただきたい。

その他にも、ローカルベンチャー事業やバイオマスボイラー導入事業など新たな取り組みが進められてきており、業務量増加に伴う適正な職員配置の検討を望む。

「事務の遂行状況及び問題点」

各課ともに概ね歳入・歳出それぞれ順調に運営されているが、一部気が付いたことについて列記する。

- ① 収入状況では、水道使用料・農業集落排水使用料・特定地域生活排水処理使用料・公共下水道使用料・町営住宅家賃・ケーブルテレビ使用料・保育料・給食費・各種保険料・町税のすべてにおいて滞納が生じている。しかし、徴収係の設置及び債権管理条例の制定により、関係各課が連携しあって徴収を行っていることに伴い、過年度の滞納額は年々減少している。

税等で徴収が不可能と思われるものについて、適切に不納欠損の取り扱いがなされているか、不公平のないような事務手続きを希望する。

滞納者本人への連絡がつかないものについては、連帯保証人と交渉するなど、積極的な徴収業務を行っていただきたい。

調定について、歳入が見込めるものは当初から計上すべきであり、収入があるにもかかわらず調定が未計上であったり、調定額よりも収入済額が多い科目が依然として多々見受けられた。当初予算額での調定なども、年度途中での調定額の見直しなどを徹底していただきたい。

また、調定が二重計上されているケースもいくつか見受けられた。財務会計の調定決済の流れに問題がないか、各課の現状を今一度チェックしていただきたい。

- ② 備品については、総務課にて一括して概ね適切に管理されている。しかし、電算上での管理となっているため、確認作業に手間取る状況となっている。備品台帳として紙ベースでの保管も今後検討していただきたい。
- ③ 公用車の利用状況は概ね適正に管理されており、年式の古い車については計画的に購入されている。新年度は新たに要望のあった10人乗りのワゴン車を購入予定とのことである。最も古いものは平成14年式で、それ以外にも10年以上使用している車が4台ある。今後も、日頃の使用状況などを考慮し、経済的・環境的に良好な公用車への入れ替えを望む。
- ④ 施設によっては、消火器等の設置がなされていると思うが、業者による点検をしていない施設について、消火器の使用期限の確認がなされているか懸念される。各課局においては、所管施設ごとに確認をしていただきたい。

「補助金関係」

補助金等の交付については、町の規定により申請書・実績報告書・領収書等の添付書類は良好である。教育委員会関係で新たな補助金も出来ており、今後の事業成果に期待する。

「工事関係」

平成28年の熊本地震に引き続き、平成29年の九州北部豪雨災害の影響で、数多く繰越していた災害復旧工事も今年度中には完了する予定となっている。しかし、災害査定に乗せられなかったものが約30件残っているようであり、次年度での早期復旧が望まれる。

また、波居原簡易水道の水源削井工事も、水脈調査等による場所の選定や工法の検討に時間を要し、未着工となっている。こちらについても、水不足解消のために早期の完成を望む。

「学校監査、保育園施設監査」

(保育園関係)

現地調査を行い、出納簿や備品台帳等を見て、概ね適正に整備されているこ

とを確認した。以前は、賄材料の発注伝票に業者側の誤りが多数見られたが、発注先が変更されたこともあり、本年度は概ね改善されていた。

園庭の整備や遊具については、専門の業者に委託し定期的に点検・確認されている。今後も園児の安全対策を講じていただきたい。

土曜保育については、現在は市原保育園にて実施している。以前に比べ土曜保育の依頼が多くなっており、監査実施日（2月13日）の前週は36名であったとのことである。職員の配置にも苦慮しているようである。全国的な保育士不足となっており、本町も例外ではないが、今後も適正な職員配置と定期的な職員採用に期待する。

園舎の状況について聞き取りした結果は次のとおりである。黒川保育園は建て替え間もないこともあり、また、りんどうヶ丘小学校に隣接していることから、環境としては申し分ないとのことである。市原保育園については、屋根が陸屋根であり、雨漏りなどが懸念される。また、他園に比べ床の劣化が著しく、計画的な修繕が望まれる。中原保育園については、昭和57年建築で3園の中で最も古い施設となっており、今後の修繕料の増加が危惧される。

(学校関係)

現地調査を行い出納簿や備品台帳を見て、一部を除き適正に整備されていることを確認した。備品台帳記載時に、購入金額ではなく見積り金額で記載しているものが見受けられたため、購入金額での記載に統一するよう指導願いたい。各学校では、それぞれの学校経営案により適切な運営が行われており、それぞれの特色が表れた教育がなされていた。各学校に目立ったいじめ案件や困難事例などはなく、日頃から児童・生徒に対して適切な指導がなされている結果と思われる。今後もそれぞれの教育目標に向かって努力してほしい。

施設の状況についての聞き取り結果は次のとおりである。南小国中学校は、屋根が被っていない箇所での雨漏りが心配される。また、蛍光灯の安定器からの液漏れによる故障が発生している。火災等に繋がりにくいこと、早急な対応が望まれる。中原小学校では、漏水が発生しているものの、校舎の下に配管があり、漏水場所の特定ができない状況である。市原小学校は、図書室が建物の端にあり、児童が利用しづらい環境にある。りんどうヶ丘小学校でも、校舎中央の図書室部分の雨漏りが深刻な状況となっている。

いずれの施設も、耐震化はなされているものの、老朽化による雨漏りは深刻な状況といえる。教育の更なる充実のためにも、施設の長寿命化計画の早期策定と、計画的な対策を講じていただきたい。